



頼恭様は、学問
に対して深い
理解をもって
おられて、費用もおしまれず

数々の本を作ること
を命じられ、そのほとん
どにたずさわったのが、
高松藩儒官・後藤
芝山先生だ。



芝山先生の他にも
多くのすぐれた人
達が登用されて、
頼恭様をよく助け
ておられるとか。



その芝山先生が
高松に塾をひらいた。
おさむらいも、民百姓
も、分けへだてなく
学問が教えてもら
えるというのだ。



えーつつ
ほんまかよ
それつ

おつ
はやいな
彦すけつ

わっわっ

バツバツ

芝山塾で教わるのは
「じしやんがく儒学」という隣
の、清きよという国の古く
からの学問なのだ
そうだ。芝山先生は



にやはははは

はよう
入れよう
お前らつ

入れいってもつ
こいつつ ええか
げんありろ

うるさい

あっ



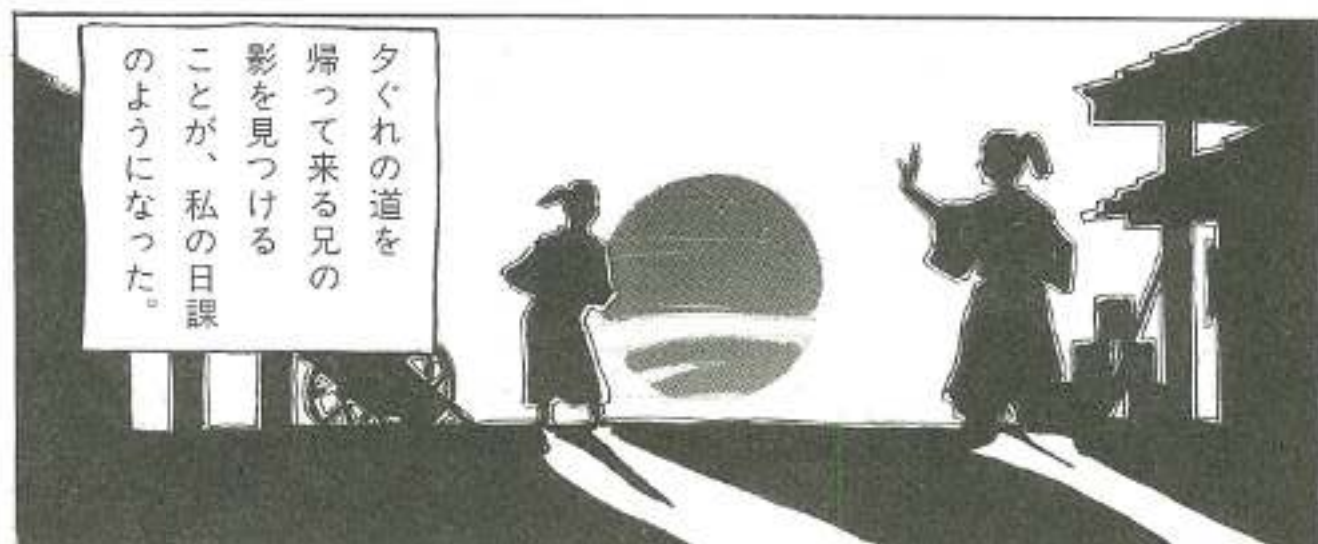
あつはよ
彦さん

あつおはよう
ございます
久保さんつ

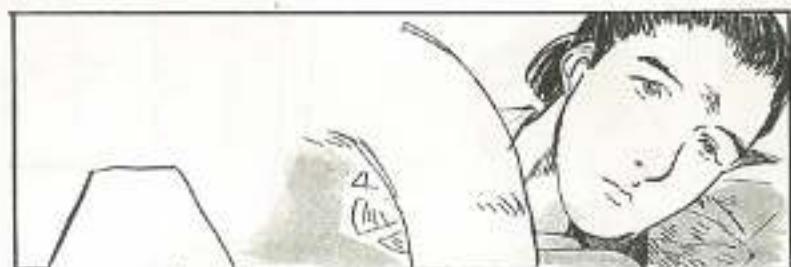
過ちでは
則ち

儒学の他にも天文学
暦学れきがくそれから日本
古来の「こくがく国学」も
勉強したのだった。









彦輔

私はな



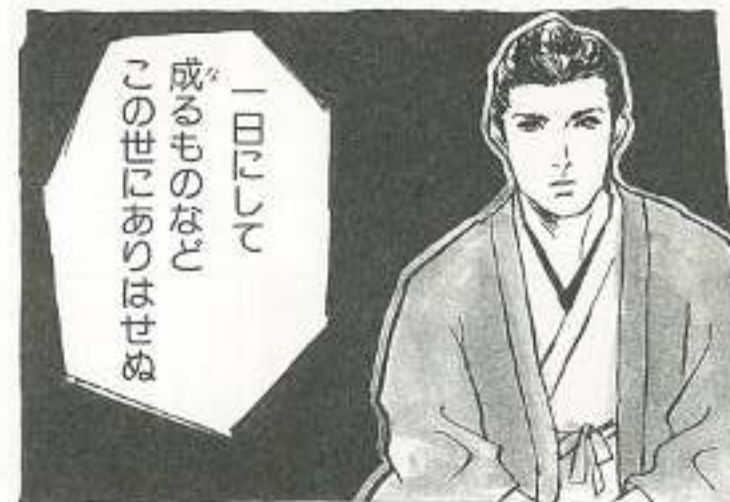
しかし、日々の
努力をおこたつては
それ以上の進歩は
ないぞ

お前が問いに答えられ
なかつたからキセルなどで
打つたのではない



何をすることに
おいてもこれは
言えることだ

私はお前の
心根を打つたのだ



一田三郎
成るものなど
この世にありはせぬ



お前が
利発なことは
よくわかつている



往復四里もの
道を

休むことなく
通いつづけている
お前ならば
わかるはずだ

だから
いうて
あるのだ

よいな
彦輔



はいっ
先生

小輔も
学問が好きなのね

兄は大人になってから
も事あることに「この
傷のおかげで今の私が
あるのだ」と、大事そう
に顔をなでては言っ
ていたものだ。



ザッ

ザッ
ザッ

うん

お医者様に
なつておつ母さま
丈夫にして
あげるね

ありがとう

精が出るね
軌達さん

お義母さん

野口のおばあさまは、
母のおつ母さままで、兄
の学費をはじめ、いろ
いろと長い間、援助し
てくださった方だ。

彦輔は
今日も
いったんか

このまろは
具合がええ
ようやな
おさわ

はい
お田さん

彦輔だったら
またいつでも
あずかるで

やりくりは
不自由は
ないんか？

大丈夫ですよ
お義母さん

いかんよ
軌達さん
田畑を売ろう
なんて考えとるん
だったらね



妙な遠慮は
せんと!



彦輔の学問に
お金がいり用な
時はいつでも
いつてくれたら
ええ

うちには
それくらい
の
余裕はある



どしてそんな
むずかしい本が
読めるん?

小輔にだつて
読めるように
なる

どうしても
知りたいことが
たくさん書いてある
んだから

学問に対する兄のひ
たむきさは私も何か
をやらなければ、と
いう気持ちにさせた。

兄は私の
お手本だった。



はあ

どんなに暑い日でも、凍るように寒い夜でも、兄が机にむかうのをやめた日はない。

塾へ行くのを休んだ日はない。母が寝込んで、野口のおばあさまの所にあずけられた日々もまた、



ハサミ

